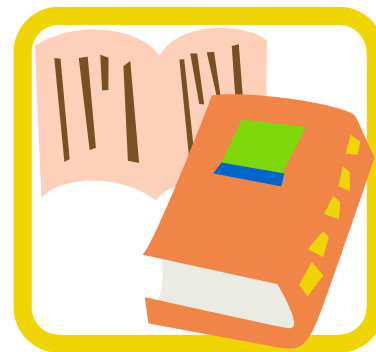




# 小論文攻略マニアル



## 文章作成いろは歌

い 一番に 言いたいことに まとしぼれ  
ろ 論を書く ためには根拠が 欠かせない  
は 柱立て まず全部の 筋作れ  
に 二度三度 同じ事柄 書くなかれ  
ほ 「僕」「自分」 やめて「私」を 使いたい  
へ へつちやらと 自分に言って まず書け  
と 途中にて 論旨の流れ ふり返れ  
ち 近づけよ 主語と述語の 離れすぎ  
り リズム感 音読してみりや よくわかる  
ぬ ぬかりなし 推敲重ねて また推敲  
る ルールあり 原稿用紙の 使い方  
を 「を」「か」「へ」「に」 助詞の一つで 意味変わる  
わ 忘れたら 語句を必ず 辞書引いて  
か 改行は 思考のまとまり 示すもの  
よ 読む人の 立場になって 書け文章  
た 「だろ」「は」「はず」「思う」の連発 自信なし  
れ きれいだし 飾りや記号は 不必要  
そ 粗雑でも まずは下書き 書き上げよ  
つ つなぐとき 使うことばは 慎重に  
ね ネットさがし 日頃の読書や 思索から  
な 「など」「こと」「も」「よう」「も」「もちろん」 平仮名で  
ら ラストにも 書き手の工夫 読み取れる  
む ムリムダに かせいだ字数は 見やぶられ  
う うまさより わかる文書く 心がけ  
ぬ 井の中に 甘えず文章 人に見せ  
の 残すなよ 余白と時間は めいいっぱい  
お 大きめの 課題について 切り刻め  
く 句読点 意味の区切りに 的確に

や やるせなや いつまでマンガ字 続けるや  
ま 「ます」「です」か 「である」で書くか 一貫を  
け 研究し 読み手の特徴 文章に生かせ  
ふ 振り分けは 書き出し数行で 決まっちゃう  
こ 「これ」や「それ」 何を指すのか その指示語  
え 鉛筆の 濃さまで気になる 読み手には  
て 「的」「性」と 使いすぎると 不透明  
あ 頭から 結論言うのも 一構成  
さ 先を見て 書いている途中に 調節を  
き 気をつけよ 内容下げる 誤字・脱字  
ゆ 許されぬ 一部の人の 専門語  
め 名詞止め 倒置法など レトリック  
み 短めに 文を句切ると 読みやすし  
し 修飾語 どこにかかるか 整えて  
系 Aのつく 文章読んで 参考に  
ひ 人の言 引用するなら 正確に  
も もつと書け 書くほど文章 うまくなる  
せ 説教調 歓迎されぬは 世のならい  
す すらすらと 書けるは 技術の積み重ね  
ん ？ しかし きみの文章 だいじょうぶ？

## はじめに

例えば、「遠足」という題が与えられたとき

「私は、小学校の時に、筑波山に遠足に行きました。その時、つらい山登りを経験して、何事も最後まで貫く大切さを知りました。また、その時にとても印象に残っているのは、友達が疲れて歩けなくなったことです。私は・・・」

と書くのは作文。主体が「私」なのだ。あくまで「私」の経験であり、「私」の感想である。

同じ題でも

「遠足とは、小・中学校に必ずある行事である。遠足を通して、小学生・中学生は何を学ぶのであるうか。以下の三点が考えられる。

第一に、集団行動の大切さである。第二に、校外学習を通し、見聞を広めることである。第三に、・・・」

と書くのが小論文。テーマを客観的に分析し、一般論という形で書くのだ。この際、自分の遠足体験を書くことは、間違っではない。しかし、それはあくまでも一般論を導き出す手段であって、経験を書くのが目的ではない。小論文になくてはならないのは、「論理性」なのだから。しかし、出題の例で、「私の読書」「読書」「近頃印象に残った出来事」「新聞」というテーマを与えられたとしよう。その時、「作文」で書くのか「小論文」で書くのかの判断は、その問題を受験する人それぞれがしなければならない。

△練習▽ どちらが、小論文の表現として適切でしょうか。

イ、都市に緑がなければ生活に潤いがないだろう。

イ、都市に緑が少ないのは悲しいことだ。

ア、地震に対する対策が考えられなければならない。

イ、地震に対する対策が考えられなければならない。

ア、「男らしい」「女らしい」言葉には問題がある。

イ、「男らしい」という言葉は好きではない。

## 小論文の型

短文テーマ型（課題型）

題名のみが与えられるもの

文章読解型（短文）

三〇〇〇字程度の文章が与えられ、時には要約も含み、その内容をふまえた上で意見を述べるもの

文章読解型（長文）

かなり長い文章が提示されます（場合によっては、英文や複数の文章が提示されます）

資料分析型

グラフ・表やデータ、写真等から、考えられるもの、要求された課題で論述するパターンです

受験校によってパターンが決まっているところもある。逆に、毎年出題形式を変えているという学校もある。どれかに絞って、というのは危険な行為かもしれない。

しかし、基本となるのは、「短文テーマ型」。この訓練をすることをすすめる。それに加えて、各型の訓練をするべきだ。

読解型は、「現代文」の学習に似ている。資料型は、昨今実に様々な出題方法が見られる。漫画からの出題、英語で書かれた童話からの出題など予想もつかないものが登場している。しかし、基本は同じ！一つのテーマで論じるということだ。

日頃から、問題意識を持つことが大切だ。日常生活の中で起こる様々な出来事に対し、考え、意見を持つという習慣が持てないといけないのだ。それに、小論文は、授業で学習した内容が定着しているか、総合的判断が出来るかということも問われるものだ。日々の授業を大切にしよう。それ

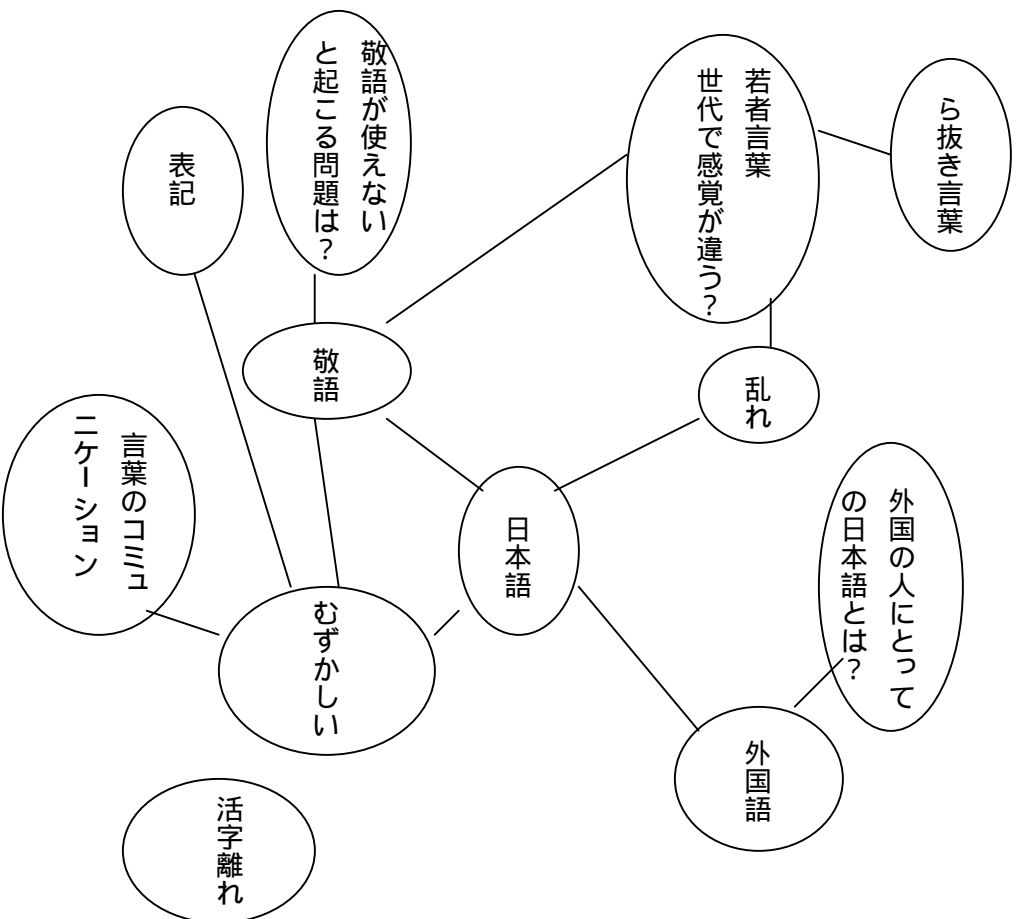
から、**新聞を読もう**

題を与えられたら、思いついたテーマをとにかくメモしよう！

次の題を見たときに、思いつくこと、具体例・意見などを何でもいいから、とにかく紙に書いてみよう。絶対おっくうがらずに書くことー頭の中だけですまないことー文字にしてみると、整理が付いてくるよ。

メモをとることが苦手な人にお勧めなのが、ブレインストーミング。あるいは、マッピング法というもの。試しにやってみよう。

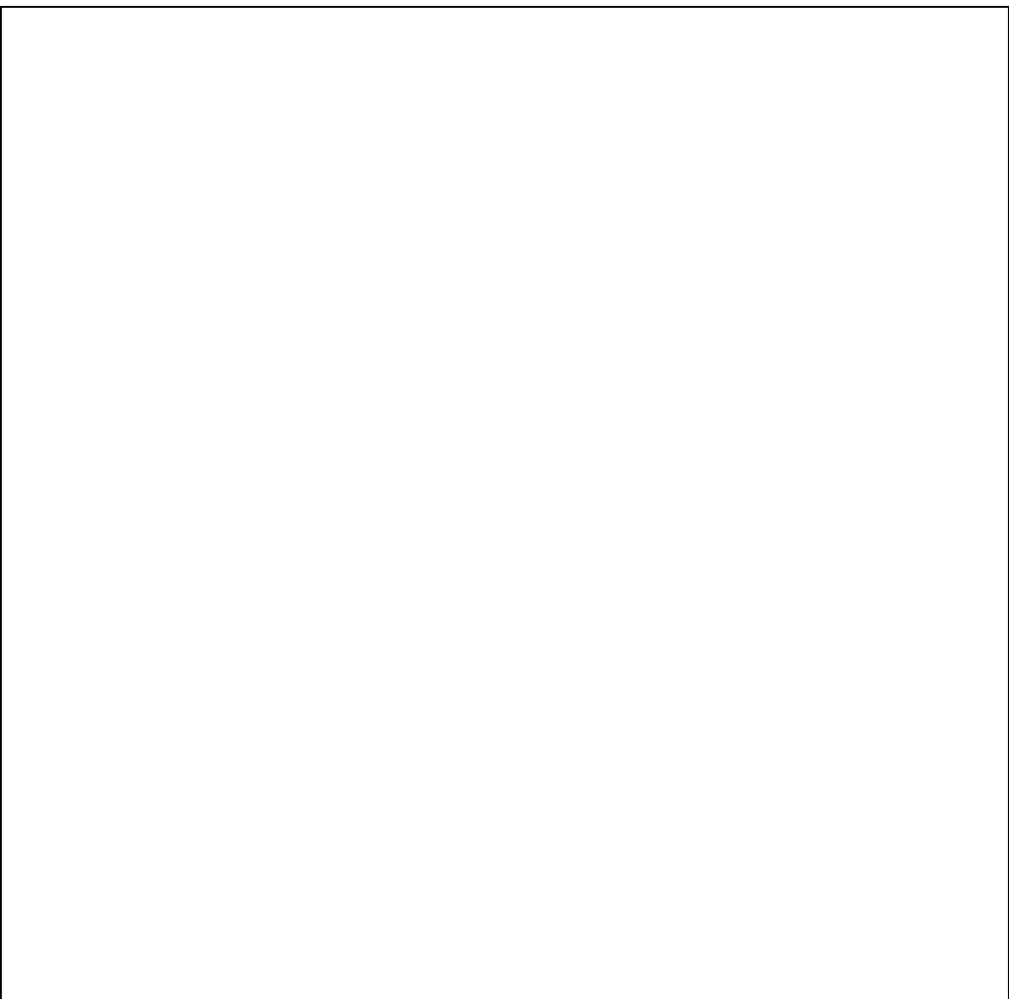
【例】「日本語」という題をあたらえられたら、^思考マップ作りv



おなじように次の題から一つを選んで、マッピングをしてみましょう。

【題】

- ・ 読書
- ・ 環境破壊
- ・ 生命
- ・ 大学
- ・ 捨てる
- ・ 携帯電話



思いつくままにメモがとれたら、内容ごとにグループにまとめよう。いくつかのグループができるはずだ。この際、書いたことすべてを取り上げるとは、何でもありのごった煮料理になってしまう。必要なテーマを絞らないと、何を言おうとしているのかわからなくなる。味付けのベースは一つにすること。つまり、**テーマを絞る**＝**主題文を作るということが大切**。

書くべきテーマが絞れたら、もっともっとテーマを煮込まなければいけない。具体例を入れたり、自分なりの考え方を深めたりと、テーマを充実させることが大切。

さて、どうだろう。「内容」が大切だと言ったことがわかったかな？文章は小手先だけのテクニクでは書けない。いかに、常日頃から、一つの物事をじっくり考えているかが「鍵」になるのだ。

## ポイント

### 主題の決定

具体的に何についてどう書くか、文中で書き表したい中心は何か、をはっきりさせること！

## 主題文を作ろう

それでは、主題文を作ってみよう。

大きなテーマは、小さく具体的に絞る

自分がきちんと説明・説得できる内容を主題にする

決定した主題は、主題文として一文か二文の形に書く

- ・ 文明とは、
- ・ 家族とは、
- ・ 古典とは、
- ・ 高齢化とは、
- ・ 生命とは、
- ・ 高校時代とは、
- ・ スポーツとは、

## 情報を集めよう

小論文を実際書いてみると、何を書いたらいいのかわからないという壁にあたることがある。その最たる原因は、与えられたテーマに対して、情報が無いということであろう。常に情報は仕入れておき、ストックをしておかねば、実際書く段階になってあわてふためくことになる。ここでは、練習なので、「情報収集方法」「情報選択方法」「情報整理方法」「情報選択方法」を押さえておくことにしよう。

- ・ 「情報収集」の方法には、いくつかある。
- ・ 自分の経験や記憶から見つける。
- ・ 図書館（本や雑誌などの印刷物、辞典・事典など）で情報を収集する。
- ・ 新聞で情報を探す。（過去の記事は、縮刷版やインターネットから得る）
- ・ インターネットで情報を探す。
- ・ CD-ROMなどの電子媒体を利用する。
- ・ 直接情報を持っている人に尋ねる。（インタビュー）
- ・ 直接情報の現場に出かける。（フィールドワーク）
- ・ 「情報整理」も大切な能力である。
- ・ 読んだからおわり、見つけたからおわりではなく、自分の言葉に置き換え、整理・分類しておくこと。
- ・ 情報元を明らかにしておくこと。（本なら、書名・著者名・内容など、インターネットなら、URLやホームページ名など）
- ・ 「情報」を選択して書く。
- ・ 得た情報を全て使おうと思っはいけない。
- ・ 同じようなものはひとまとめにする。
- ・ 柱になるテーマを選ぶ。
- ・ 本やインターネットの文を、そのまま使っはいけない。

つまり、「小論文」は、「素材」を持っていなければ、「書けない」という  
ジャー

「素材」なしで書いた「小論文」は、「裏付け」のない「くだろつ」「かもしれない」という「あやふや作文」になってしまつということ！

**結論、「小論文」は、「素材」が命!!**

付録・・・小論文を書く上で、参考になる本。

- ・ 岩波新書
  - ・ 岩波ジュニア新書
  - ・ 岩波ブックレット
  - ・ 中公新書
  - ・ 講談社 + 新書       など。その他は、テーマごとに選書しよう。
- そして、本を読むときには、
- ・ 明確な目的を持って読むようにしよう
  - ・ 使える内容がどうかを考えながら読むようにしよう
  - ・ 批判的な読み方をしよう（疑問を持ちながら読む）
  - ・ 記録しながら読むようにしよう

## ポイント

### 素材の選定

具体的な記述のためにどんな素材が収集できるか、どの素材を使い、どう配列するかを考えよう！

## 小論文のテーマを分析しよう

ポイントは、3What3W1H!

3What

What (定義)・・・この場合、キーワードはどんな事柄を指しているのかを自分なりに定義してみる

What (現象)・・・今実際にどんなことが起こっているかを考えてみる

What (結果)・・・これからどんな事態が起こると予想されるかを考えてみる

3W

Why・・・なぜそうなるのか、原因・背景は何かを考えてみる

Where・・・外国など、ほかの場所ではどうかを考えてみる

When・・・いつからなのか、違う時代ではどうかを考えてみる

1H

How・・・対策としてどんな方法があるかを考えてみる

それでは、練習。次の課題について「3What3W1H」を考えよう！

- ・ ストレス社会に思うこと
- ・ 高齢化・少子化社会の問題点
- ・ 日本人の豊かさについて
- ・ 国民と政治について
- ・ マルチメディア社会がもたらす展望と問題
- ・ 二十一世紀の科学はどうあるべきか
- ・ 日本の医師と患者のあり方
- ・ 環境破壊を考える
- ・ 国際化時代における生き方

## 二人ディベートをしよう

「小論文」は、紙面ディベートなのだ。自分の意見を一方的に書いたのでは、読み手を納得させるのは難しい。読み手の持つ、「あなたの意見に対する反論」も想定して、「あなたはそう思うかも知れないけれど、私の意見はこういう面で、あなたの意見に勝る」という書き方を取り入れて、相手をより納得させるのだ。しかし、いざ書いてみるとこれが難しい。そこで、「反論」というものに馴れよう。そこで、ちょっとゲームをしよう。二人組になり、紙面ディベート「こ」をしよう。一切しゃべらず、すべて、紙面の上だけで討論するのだ。

【例】「癌の告知について」紙面討論をしよう。

甲

乙

甲

乙

甲

乙

甲

乙

甲

乙

甲

乙

甲

乙

## 読み手を説得し、納得させるのが小論文

読者（採点者）は、あなたの意見に「反論」を持ちはしないだろうか。という意識を持つことが大切だと納得できただろうか。読者から反論が出る前に、反対意見も書き、それをもうち負かす理由を書き、読者を納得させてしまおう。つまり、いろいろな理由や根拠を使って、**自分の意見を正当化していくのだ！**

では、練習。次の題を与えられたときのあなたの意見と予想される反論を考えてみよう。迷ったら、周りの人に意見を聞いてみるとよい。

・ 物質的な豊かさ

（意見）

（反論）

・ 学歴社会

（意見）

（反論）

・ クローン技術

（意見）

（反論）

・ IT社会

（意見）

（反論）

・ 高校生の制服

（意見）

（反論）

## 小論文だから、構成をしっかりと！下書きの練習をしよう。

次のように小論文の構成メモを作ろう。構成メモは、小論文の設計図のようなものだ。基本となる型を覚えよう。

- (起) 主題の提示
- (承) 主題の論証 (具体例の提示)
- (転) 反論への顧慮
- (結) まとめ (主題の再提示)

△例▽「漫画は必要か」という題で小論文を書いてみよう。

- ・ 「漫画は必要か」という題からテーマ(主題文)を考えよう。
  - ・ 「漫画は必要である」「漫画は必要でない」のうち、どちらの立場をとるか決めて、結論を考えよう。
  - ・ 結論を説明するのに必要な論拠(意見・データ)を書き出そう。
  - ・ 小論文の構成を書き出そう。
- それでは、次の課題で練習しよう。
- ・ 二十一世紀の日本の若者に必要な能力
  - ・ 高度情報化社会における光と影
  - ・ 少子化が社会・経済に及ぼす影響と自分の考え
  - ・ 日本のグローバル化
  - ・ 日本の家庭教育
  - ・ 日本の食糧問題
  - ・ こころの栄養

もう一つ「問題解決型」も身につけるといいぞ！

- (序論) 問題点の提示
- (本論) 問題点の分析・考察
- (結論) 解決策(主題)の提示

文章の構成（三段論法）

**序論**

1 結論

（自分がこれから書くことについて、自分の考えを述べる）

2 問題提起

（自分がこれから書くことについて、どんな問題があるかを  
書く）

**本論**

序論を受け、その内容の根拠となる理由、具体例、具体策を述べる。

自分の言葉で、自分の経験・体験、テレビやニュースで見たこと、書籍からの引用などを取り上げる。

わかりやすいように証明すること。

**結論**

本論をまとめ、最終的な自分の考えを書く。序論とつながりを持たせる  
こと。

序論が1の場合、自分の考えの再確認

序論が2の場合、問題の答え

## 付録2 フォーマルな型

1 主題の提示	
題名	
(1)	とは
(2) 私は	を
	のようになれる。
2 主題の証明 (主題の正当性を示す根拠を書く。*事実で証明すること。)	
*事実とは、自分の体験・新聞や本の記載など客観性の高い物を、読み手にわかりやすく説明すること。	
なぜなら	
	のようない事実があるからである。
3 反論の予想 (小論文は紙面上での議論である。議論には必ず反論がつきものである。自分の中で予想される反論を考え、それに対する説得をするようにしよう。説得に成功しなければだめだね。)	
(1)あるいは	
	のよう考える方もできる。
(2)しかし、それは	
	のようではなない。
4 結論 (1で述べたものの確認)	
ゆえに	
	と考える。

付録3 問題提示の型

題名

- 1 法則の提示 (テーマに関して自分の発見した事実や一般に通用している法則や正しい論理を書く) (ここがしっかりしていないと書き進められない。)

- 2 証明としての事実の提示

- (1) 1で述べた法則が正しいことを証明する具体的な事実

- (2) 1で述べた法則に反して失敗した事実

- (3) 1の真実性を証明する

- 3 問題の提示 問題提起で読み手なるほど!と思わせる

## 付録4 問題解決の型

題名

1 問題の提示

2 問題を引き起こした原因・理由

(原因・理由に正当性・妥当性があるかどうかを考えて、自分の考えの観点や論証の立場を明確にする)

3 反論の予想

(自分とは違った立場で同じ問題を考えている読み手(反論)がいることを想定して、その読み手を納得(説得)するように書く)

4 解決法の示唆

(2・3の部分から考えた解決法を書く。より具体性があった方がよい)

## 小論文を書く上での本当に**基本編**

### ・言葉遣いは大丈夫？

「です・ます」体で書かない方がいいですね。「だ・である」体に統一しよう。

口語口調は全体ダメ！

「〜と思う」「〜かもしれない」という曖昧な言い方は避けよう。自信を持って言い切った方がよい。

誤字・脱字気をつけて！「て・に・を・は」「ミスも要注意。

**読んでいただくという気持ち**で書こう！

一文は短く！目安は約**三十字**と覚えよう。

### ・原稿用紙の使い方は？

縦書きの場合・横書きの場合では使い方に違いがあるよ。両方になれておこう。

例えば、横書きでローマ字を書く場合、大文字は1文字。小文字や数字は、1マスに2文字という原則がある。例えば、縦書きで数字を書く場合、原則漢数字で表記する。（最近の新聞表記は、漢数字を使っていないので注意すること）

句読点ははつきり書こう。  
「？」「！」等の符号は使わないこと。

### ・指定字数は守っていますか？

例えば、600字が字数制限だとしたら580字前後、800字なら780字前後が理想。字数オーバーはダメ。字数が足りないのも、採点外になることもある。

### ・時間配分に気をつけていますか？

実際に書く時間は少なくて大丈夫。むしろ、構成と下書きに時間を取るう。60分なら、何を書くかで30分。下書きで15分。実際に書く時間が10分。見直し、校正に5分。

### ・主張が明らかですか？

主張に裏付けがありますか？（説得力がありますか）

主張に一貫性がありますか？

主張に独自性がありますか？

自分しか知らない情報は、他人が読んだ時に目に浮かぶように。

## とにかく書く小論文(主なテーマ)

### 人文系

- ・ 古典と日本文学
- ・ 異文化に対しての劣等感・優越感
- ・ 私が二十一世紀に残したいもの
- ・ 異文化理解と海外援助
- ・ 信じることと知ること
- ・ 豊かさについて述べる
- ・ 思春期の心理とは
- ・ 携帯電話の普及に思うこと
- ・ 地べた族をどう考えるか

### 教育系

- ・ 小中学生の不登校を考える
- ・ 子供が変わってしまったとよくいわれるが自分はどう思うか
- ・ 子供と遊び
- ・ 父親が育児休暇を取るということについて
- ・ いじめの現場を見たらどうするか
- ・ 高校生は制服を着るべきか
- ・ 家庭としつけ
- ・ もしも校則がなかったら

### 社会科学系

- ・ 生きがいについて
- ・ リストラの意義
- ・ 現代社会に生きる人間、とりわけ若者に欠けているものは何か
- ・ 個人の尊厳について
- ・ 自分自身を見失わないために私たちが出来ること

- ・ 情報技術を効果的に使い、その技術を生かすために注意すること
- ・ なぜ人は働かなければいけないか
- ・ 学歴と職業
- ・ 子供を虐待する親について
- ・ アイデンティティとはなにか

#### 自然科学系

- ・ 食事と健康
- ・ 生涯にわたって、運動・スポーツを継続するための工夫
- ・ クローン技術の問題点について
- ・ 自分は「デジタル」派か「アナログ」派か
- ・ 資源開発と自然破壊
- ・ 人口増加と食糧生産
- ・ クリーンエネルギーの開発
- ・ 諫早湾干拓問題について
- ・ 地球温暖化をくい止めるには
- ・ リサイクル法の施行に思うこと
- ・ 原発と安全性

#### 医・歯・薬・看護系

- ・ 自立とはどのようなことか
- ・ 食習慣と歯科疾患との関連について
- ・ 「存在すること」について考える
- ・ 脳死・臓器移植を考える
- ・ 遺伝子治療について
- ・ 介護保険の導入以後の現状を考える
- ・ インフォームドコンセプトの利点・夫利点
- ・ 正しい看護のあり方
- ・ 末期医療について

### 全学科共通

- ・ ボランティア活動について
- ・ 社会とマナー
- ・ 日本人の茶髪化現象について
- ・ 現代の若者の生き方について考えを述べよ
- ・ 公務員のモラル

### 抽象的な課題

- ・ 自由について
- ・ 優しさとは何か
- ・ 出会い
- ・ ライバル
- ・ 癒やし
- ・ 生き甲斐
- ・ 夢
- ・ 生と死
- ・ ことば
- ・ 平等について
- ・ 豊かな生き方
- ・ 伝統について
- ・ 国際感覚

### 学校生活に関する課題

- ・ 修学旅行
- ・ 部活で学んだこと
- ・ 宿題
- ・ 心に残る授業
- ・ 校則について
- ・ 学力と成績
- ・ 何のために学ぶのか

- ・ 校舎
- ・ 高校生活の思い出
- ・ 先輩・後輩
- ・ 先生

就職・進路に関する課題

- ・ 入学（入社）志望の動機
- ・ 学習と研究の違いについて
- ・ 労働とは何か
- ・ 大学で何を学ぶか
- ・ 「職業」とはどのようなものか
- ・ 余暇の使い方
- ・ 大学のレジャーランド化について

数限りなく小論文の題材はある。常日頃話題になっていることが、小論文の題材になることがある。社会的なニュースが小論文として出題される。それに、人文系で出題されたからと言って、社会科学系で出題されないとは限らない。

出題傾向

- 1、社会的な問題（全体の八割がこのテーマ）
  - \* 社会問題に対する知識・関心が優劣を分ける
- 2、抽象的思考力を問う問題
- 3、理系の小論文は教科の延長上にある問題
- 4、英文の小論文
  - \* 「環境問題」は学部学科を問わず出題される

テーマ型小論文攻略法まとめ

短文テーマ型（課題型）

題が与えられるだけだから、かなり自由に書ける。反面、非常に漠然としており悩むのもこのタイプ。論じる内容に自らの考えで具体性を与えていかなければならない。

#### 文章読解型

課題文に書かれている事柄や意見について、自分の考えや意見を論述するタイプ。要旨や要約を付随する場合が多い。

ここで注意しなければならないのは、筆者が力を込めて述べようとしている事柄や意見を見抜かなければいけない。文章の読解力が非常に鍵になるのだ。重要な箇所に出会ったら、マークしながら読むと良い。筆者の意見とそれに対する具体例とを分けて考えるようにしよう。書く側は、筆者が力を込めて述べようとした事柄や意見に対して、自分の意見を書かなければいけない。課題文を繰り返しているだけではだめなのだ。

また、要旨や要約は、全体の流れの中で無駄な部分を排除して簡略化していくことである。まとめる際は、具体的な表現を省き、具体例の結果はどういうものかということを押さえて書く。要旨は、全体の流れ。要約は、筆者の主張と考えよう。

それから、このタイプで最近受験生泣かせなのは、「英文」の文章を与えられるという場合である。

#### 資料分析型

資料とは表やグラフであり、ほとんどが統計的な資料である。

このタイプは、資料から問題となるべき事柄・テーマを読みとって、それについて自分の意見を述べるのだ。データそのものとそこから導き出せる意味とに分けて論述すると良い。

注意するのは、資料から読み取る問題点を二・三点に絞ること。あまり多くの問題点を取り上げると、すべてを論じられなくなってしまう。それから、与えられた資料は論点の中に、すべて取り上げた方がよい。

最近多いのは のパターン。しかし、基本はみんな一緒。多くの問題にチャレンジしよう。

**書いたら、自分だけで納得しないで、必ず誰かに**

**読んでもらうこと！**

**小論文の採点で重視されること**

- ・ 表記の誤り。あまり重視しないが、影響はあるようだ。
- ・ 資料読解・分析力は非常に重視される。
- ・ 論理的思考力は非常に重視される。
- ・ 意見や切り口の独創性は重視される。
- ・ 表現力は重視される。
- ・ 設問に応じた論を述べる力は重視される。
- ・ 現代社会の諸問題・志望分野への関心度は非常に重視される。
- ・ 教科力は重視される。

小論文の要求学力

取り組むための前提

- ・ 各教科学力
  - ・ 志望への関心
  - ・ 社会問題への背景意識  
考える
  - ・ 資料を分析する力
  - ・ 論理的思考力
  - ・ 総合的に問題をとらえる力
  - ・ 問題点を設定する力
- 書く
- ・ 構成、表現力、記述力

## おまけ 「志望理由書」の書き方

次の空欄に合わせて書いてみよう。

私は、将来 [ ] になりたいと考えている。きっと  
けは、 [ ]  
からである。そのためには、 [ ]  
必要がある。その点で貴学の [ ]  
大変魅力的である。それは [ ] だからである。  
また、貴学のオープンキャンパスに参加し、 [ ]  
と感じた。  
私は貴学に入学した後、 [ ]  
 [ ] をしたいと考えている。  
そして、 [ ]  
貴学で学んだことを活かして、社会に貢献したいと思う。  
以上が、貴学を志望した理由である。